慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | おわりに |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾大学産業研究所 |
| Publication year | 1975 |
| Jtitle | Keio Economic Observatory review No.No.1 (1975. 7) ,p.166- |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 物価分析特集. |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00390376-00000001-0166 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# おわりに

日本経済の供給の構造を自律的モデルでとらえ，価格変動の横断面及び時系列推移を斉合的に説明しようという，われわれの分析目的は，前章の結果から一応達成しえたとおもう。

従来のマクロ経済分析が需要面の分析に中心課題をおき，需要の拡大に応じて供給がついて来るという市場機能を暗黙に前提としていたのに対して，改めて供給の構造変化を追うことによって，日本の経済構造のより自律的把握を試みようとしたものである。

観察される価格変動パターンを各部門の技術特性と結びつけて，約80%程度説明がつくという前章の結果は，１つの分析の方向を示したものといえる。

しかし，分析は多くの点で出発点の段階にあり，とりわけ，こうした供給面と需要面との接合した閉鎖体系への発展が必要である。

こうした方向に添って，ＫＥＯでは，目下一般均衡型モデルの作成を試みている。

この論文で検討を加えた1955年～1972年以降のスタグフレーション下の経済変動については，ここで考慮された説明変数以外の市場攪乱要因が多く入り込んでいるものとおもわれる。

しかし，ここでとらえた1972年までの価格変動が部門別の技術特性と明確な結びつきをもっているという事実は，スタグフレーション期の変動を説明する１つの基礎を与えてくれるものと考えている。

また，経済成長率の鈍化が，資源制約その他から要求されている今日，総需要調整政策は，生産各部門の供給能力との対応でかなりきめ細かに運用されることが必要であろう。

そうした場合，マクロ経済指標の動きに合せて，部門別供給構造の量的把握は重要な情報を与えるものとおもう。

この論文で未解決の諸問題やより細分化した部門分割での分析は，今後の研究の発展に期したい。